



Newsletter

Professors, we are coming to tell you how useful WebCT is!



WebCT 活用事例 (4) : 学生間の議論を通して思考力の向上、授業内容の深い理解をはかる教育哲学 (教育学研究科 丸山恭司先生)

今回は、学生間の議論を授業に積極的に導入されている事例を紹介します。

■ WebCT を知られたきっかけを教えてください。

WebCT を使うようになったきっかけは「もみじ」の講義別掲示板がなくなった(注: 前バージョンの「もみじ」には、学生も投稿できる掲示板を講義ごとにする「講義別BBS」と呼ばれる機能がありました。この機能は2009年3月末に運用停止になりました) ことでした。WebCT 自体は、もっと以前に「WebCT で授業のホームページを作りませんか?」という案内をいただいたことがあって知っていました。そのときにも挑戦はしてみたのですが、うまく作れず利用しないままになっていました。

掲示板が授業で使えなくなるのは困ると「もみじ」の担当者にお電話したところ、「WebCT でできます」と答えていただきました。それで WebCT に再チャレンジしてみたのですが、やはりうまくいかず、コンテンツ作成支援室に連絡を取らせていただきました。

■ 掲示板を利用されているのはどういう理由からですか。

最初に電子掲示板を使ったのは教養教育の授業だったと思います。順繰りに教養の授業を担当することになっていて、いよいよ私の番が回ってきたとき、200人近い学生さんを相手に一方的ではない授業がしたいと思いました。彼らが考えていることを引き出したかったし、それを学生さん同士で共有してもらいたいとの思いがありました。

私の一連の授業で重視していることに、授業中に手を挙げて自分で発言してもらい、クラスメイトの発言に耳を傾けることで、思考を深め内容の理解を深めてもらうということがあります。もちろん最初のうちは授業の中で手を挙げて発言するのが難しい学生さんもいますし、授業時間も限られています。そこで、掲示板を利用しようと考えたわけです。

「もみじ」や WebCT でもそうですが、掲示板には実名が出ます。実名が出ることに抵抗を感じる学生さんもいますが、「自分の発言には責任を持ってもらうという意味で名前を載せるのは重要なことなんだ」と説明して理解をえています。

■ 授業ではどのように WebCT を利用されているのですか。

WebCT を使っている授業は「教育哲学」という授業です。この授業では、授業期間を3つのステージに分けて、第1ステージは私のレクチャーを中心に進めています。第2ステージでは各自が論文を読み批判的コメントをA4で1枚にまとめて提出します。それを匿名でスクリーンに映し出し、みんなで添削しあいます。第3ステージでは具体的なケースを読んでディスカッションします。限られた授業時間内では言い切れなかったり、言い足りなかったことを WebCT の掲示板に投稿してもらっています。

今後は、第2ステージのレポートを WebCT に提出してもらうようにしたらいいそう利便性が高まるだろうなと思っています。

■ WebCT を使われてのメリットやデメリットがあれば教えてください

WebCT を使ってみていいなあ、便利だなと思ったのは、学生さんそれぞれの WebCT アクセス時間が記録されていて簡単に確認できることです。掲示板を読んでいてもまだコメントを書いてない学生さんが誰なのかわかりますし、そもそも読んでない学生さんがいれば、授業中に「掲示

板にコメントが投稿されているから読んでほしい」と話すことができますから。読んでいるけどまだ書けない、書くことに高いハードルを感じている学生さんに対してはそれなりの接し方ができます。まだ一度もアクセスしてない学生さんには「ちゃんと見てね」と言い、ほんの1、2分の学生さんには「もっとしっかり読みましょう」と言える。学生さんが授業に対してどれくらい積極的にかかわっているのかが、アクセス時間からよくわかります。姑息な手段っぽい感じもするんですけど(笑)

まだ機能のほんの一部しか使っていないので、デメリットというのは特にはわかりません。

■ コンテンツ作成支援室でこんなサービスがあったらいいとか、こんなこと手伝ってほしいとか何か要望がありましたらお願いします。

今していただいているサービス以外に、具体的にこれをというのにはすぐには思いつきませんが、もう少し広報をうまくしていただければと思います。WebCT にはいろんな使える機能があることを教員や学生に理解してもらうためにどうしたらいいのかっていうことですね。

先日、教育学部の教員仲間と授業改善について話をする機会があり、WebCT を使ってみたくて使い方がわからないといった話で盛り上がりしました。すでに出前講習のサービスはされているとうかがっていますが、そのことをご存知ない方も多いようですし、講座や専攻といった形式的な教員組織に対してよりも、自分の授業を改善したいと思っている教員の小グループに向けて講習会をされると効果が高いのではないかと思います。ウチで出前講習をしていただけたら、私自身も WebCT の効果的な機能を教えてもらえますし。

で、せっかくしてもらえるのでしたら実況中継みたいに Newsletter にその様子を載せてもらって、「じゃあウチでもやってもらおうか」というような話が全学に広がっていけば、WebCT による授業改善が進んでいくのではないのでしょうか。

それいいですね(笑)是非次号のネタにさせていただきたいと思います。今日はありがとうございました。



WebCT は、教員には資料の印刷・配布など、めんどろな作業から開放してくれるツール。学生には学習へのコミットメントを高めてくれるツール。
どう使うかはコンテンツ作成支援室にお願いして教えてくださいましょう。



昨年度のコースコンテンツ再利用の際には要注意!

前年度と同じコースを、前年度登録学生を削除して今年度も使っている場合、再履修生(前年度と同一IDの学生で今年度も同一コースに登録し直されている)の成績表に昨年度の成績が表示されてしまいます。学生が成績表を見たときに、今年度の成績と区別がつかみませんので、ご注意ください。

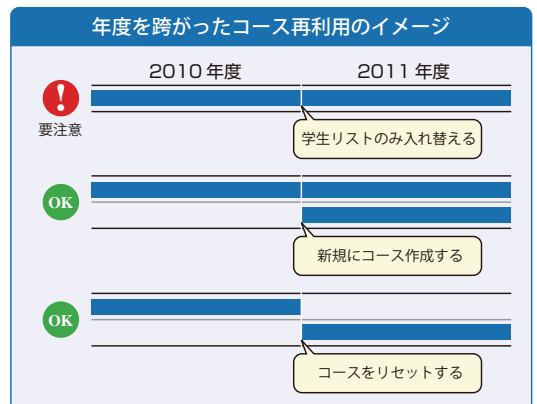
コースコンテンツを再利用するには、

1. コースを新たに作成し、以前のコンテンツをコピーする
2. コースを「リセット」し、学生データを初期化して使い回す

の二通りがあります。1の方法だと、次年度以降も学生にコースコンテンツをみせることができます。できればこちらをお勧めします。

詳しくはコンテンツ作成支援室のWebサイトをご覧ください。

<http://www.els.hiroshima-u.ac.jp/s/recycle/>



HiCE 授業一回分を動画で配信する 「広島大学 Web 公開授業」を 実施中です。

教育室コンテンツ作成支援室では、本学の教育活動をより多くの方に知っていただくことを目的として、授業映像をWeb上で公開する計画を2010年度5月から実施しています。

公開対象の授業は、学士課程会議を通して各主専攻プログラムに協力依頼をして推薦されたものであり、15週のうち担当教員が選ぶ1週分を収録します。5月下旬から撮影をはじめ、8月3日に一般公開を開始しました。以降、撮影・編集作業がおわったものから順次公開し、9月1日現在、22の主専攻プログラムの23科目を公開しています。平成22年度中には、37主専攻プログラムの51科目を公開する予定です。

動画による授業公開は他大学でも実施されていますが、多くは公開講座などの特別な授業であり、学生実習等を含む日常の授業を公開している例はあまりありません。今後も公開科目を拡大し、高校生への広報活動などさまざまな利用されることを期待しています。



教職員向けチュートリアルを配布中

WebCT CE6 の使い方を説明したチュートリアルガイドを、コンテンツ作成支援室で作成しました。4月に冊子を皆様方のところへお届けしています。また、現在下記のURLでPDF公開中です。

<http://www.els.hiroshima-u.ac.jp/s/hajimete/>



はじめのWebCT CE6 第2版

隅谷孝洋, 秋元志美, 原田久美, 林雅子, 長登康, 稲垣知宏, 北川和英(著) 佐々木由夏(装丁)

★★★★★ (10件のカスタマーレビュー)

価格: ¥0 学内便でお届け。詳細

在庫あり。在庫状況について

この商品は、els.hiroshima-u.ac.jp が印刷、発送します。

ご注文はお早めに。コンテンツ作成支援室まで。

イメージを拡大

出前講習会やっています



2010年度後期のコース開講準備に向けた出前講習会を実施中です。WebCTの利用方法をお知りになりたい方、コンテンツ作成の支援依頼を検討されている方、是非お申し込み下さい。参加者1名でも出前に伺いますので、お気軽にご利用ください。

実施期間	2010年9月6日(月)～2010年10月29日(金)
内容	受講申込者の希望される日時に研究室などに伺い、個別のご要望にお応えする講習会です。
申込方法	http://www.els.hiroshima-u.ac.jp/s/demae/ より。